



- 『正解のない将来』を生き抜く今の子供たちには、『課題を自ら発見し、対応方法を自ら思考し、自らが実践する』力、登山に例えるなら、**赤のルート**を**自力**で**頂上まで歩く力**が求められています。

●課題を『自ら』発見

●対応方法を『自ら』思考

●『自ら』が、実践

- ・赤のルートを自力で頂上まで歩く力の3要素。

資質・能力(コンピテンシー・ジェネリックスキル等)の3要素

氷山 = 本校が育成したい生徒像(水面下の能力は?)



© Can Stock Photo

①知識・技能

従来の教育活動

で育成している
資質能力

②③水面下の能力
(測定困難)

これからの教育活動

で育成する
資質能力

資質能力の3要素

- ①知識・技能の確実な習得
- ②(①を基にした)思考力・判断力・表現力
- ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自己肯定力・傾聴力・分析力・思考力・
発信力・想像力・創造力・行動力
(山梨・●●高校)

思考力・表現力・読解力・調べる力・考察
力・観察力
(茨城・●●高校)

知力、学力・課題発見力・論理的思考力・課
題解決力・原因分析力・受診力・発信力・協
働力・行動力(他)
(青森・●●高校)

課題

①本校で育てたい
資質能力と
は?

②育成状況の測
定方法は?

- 『子どもたちの能力』を氷山に例えたなら、水面下の力(=資質・能力)を、総合的な探究の時間を中心に、全教育活動を通じて育成することが、新しい学習指導要領で求められています。



- 本校では、様々な資質・能力を育成するため、**桶高クエスト**を始めました。
(令和元年度より)



『弊社は、〇〇する会社です。』

『生徒の皆さんに、「より△△する企画」を考えて頂きます。』



ソリューション
を
プレゼンテーション
致します。

その内容を御
審査下さい。



本校生徒は、頂いた課題のソリューションを研究します。

- 1クラスに1事業所から、各社の課題を示して頂き、その解決策をグループで検討し、年度末にはプレゼンします (1・2年全16クラスへ計16人の社長が講師として入ります)。

『桶高クエスト』

教科：総合的な探究の時間

- ①企業や団体の皆さまから、『課題研究テーマ』を頂きます。
- ②生徒は、貴社の業務内容や販路、社会との繋がり等を調べます。
- ③その上で、頂戴した『課題』に対する対応案を策定します。
- ④対応案が、実際に機能し有効か否かを実地調査・アンケート調査などにより、研究します。
- ⑤最終的な『課題解決策』を、担当した生徒が、直接企業（等）の皆さまへプレゼン致します。
- ⑥その完成度や有効性等を審査して頂きます。
- ⑦この活動を通して、生徒は、『情報収集力・課題発見力・論理的思考力・批判的思考力・連携力・文章表現力・発信力』を身に着けることが期待されます。
- ⑧また、生徒たちに地元愛を育ませ、地元企業に関心を持たせることが期待されます。
- ⑨つまり、本校と企業や団体の皆さま双方にとって、WIN-WINの関係づくりが推進できます。